Akita University

[秋　田　大　学
教養基礎教育研究年報
15 — 19　(1999)]

初年次ゼミ報告（平成10年度地域科学課程）

石黒純一　　中村裕
松村公明

1　はじめに

教育文化学部地域科学課程における初年次ゼミの実施結果について報告し，学生アンケートの結果と対照しながら，その内容の検討を行った結果を以下に示す。

2　授業計画

平成10年の１月から３月にかけて各選修により選出されたゼミ委員（石黒，中村，松村の３名）と課程主任（池村）により，学部改組時に文部省に提出した本ゼミの授業計画をもとに，具体的な実施計画を策定した。策定に際して，以下の本ゼミの概要を確認した。

概要：地域科学課程の中で何をどのように学んでいったらよいのか，また，大学生活を有意義に過ごすにはどのようにしたらよいのか，について，オリエンテーションや学生相互のディスカッションを通してその方向性を見いださせる。

また，ゼミの実施にあたり，設置申請書に記載した以下の内容をすべて実施することとした。

(1)　オリエンテーション：学部・課程等の概要の説明，履修方法のガイダンス，大学生活や就職に関する指導・相談，などを，宿泊もしくは日帰りで学外に出かけ，実質１日かけて行う。

(2)　研究室紹介：学生の希望に応じて地域科学課程所属の教官研究室を訪問させ，教官と研究室の紹介を行うと共に，課程に附設された図書室や実験実習室の利用法について指導する。

(3)　図書館紹介：附属図書館を訪問し，館蔵図書・資料の利用法，オンライン化された文献検索の方法，国立国会図書館や他大学図書館の相互利用の方法など，図書館の活用法全般について指導する。

(4)　学生ディスカッション：各グループごとに，毎回４名程度の学生に大学で学びたい研究テーマや卒業後のあり方について自由に報告させ，グループ全体での討論を行う。教官は適宜，指導・助言を加えながら，学生の主体性を培い，自己啓発させる。

(5)　総括：上記によって得られた成果をレポートにまとめ提出させる。

実施にあたり，上記の(1)については教官・学生が一箇所に集合して行い，(2)〜(4)に関しては学生を３クラスに分けて行った。各クラスに対して担任教官２名（各選修２名選出，うち１名はゼミ委員），学生23名を配置した。

以上の授業計画に従って次表を作り，新入生ガイダンスにおいて学生・教官に配布した。

Akita University

回数	内　　容
1	新入生ガイダンス1
2	新入生ガイダンス2
3 - 5	研究室等の紹介
6 - 8	バスハイク
9 -10	学内図書館の利用
11-16	学生ディスカッション
17	総括、基礎ゼミガイダンス

3　実施計画

3．1　新入生ガイダンス

4月13日，14日の両日にわたり，学生と教官全員が一同に会して以下の内容で実施した。

(1) 出席確認，配布資料：学生名簿

(2) 課程主任の挨拶（課程，所属選修の決定方法についての説明を含む），資料：開設講義一覧（以下講義一覧と略）

(3) 各選修主任の挨拶（各選修の説明，各選修所属教官の紹介を含む），配布資料：学部紹介パンフレット

(4) クラス，クラス担任，学生自習室の説明と紹介

(5) 履修指導（卒業に向けて，授業の履修方法，授業の方法の説明）講義一覧の解説と同載別表1，3の説明（教養教育，基礎教育，専門教育，別），配布資料：履修モデル作成用紙

(6) アンケート調査（主たる調査項目：高校での数学，理科，社会，家庭の履修状況，配属を希望する選修，卒業後の進路希望，教員免許の取得希望）

(7) 質疑応答

3．2　研究室等の紹介

4月14，21，5月12の3回にわたって行った。学生はクラス単位で各選修を回った。各選修教官は学生を集めて選修の内容について具体的な説明をするとともに，選修所属の研究室・実験等を紹介した。

3．3　バスハイク

6月6日（土）に1日をかけて県立中央公園にて行った。午前中はオリエンテーリング場にてフィールドアスレチックを楽しみ，午後はサイクリングターミナルにて食事・懇談会を行った。教官の参加は8名であった。学生は1,100円を負担した。

3．4　学内図書館の利用

6月9，16日の2回，および6月12日の情報処理入門Bの授業時間を利用して以下の内容で行った。

(1) 附属図書館戸嶋専門員による図書館利用法の説明

(2) 図書館データベースOPACを用いた電子検索実習

(3) 附属図書館の巡回

3．5　学生ディスカッション

6月23日にディスカッションの実施概要について説明し，夏休みをディスカッションの準備および資料集作成にあて，9月1，8，22日の3回にわたってクラス単位で実施した。実施概

Akita University

要は次のとおりである。

(1) 目的：自分の考えていることをまとめ，発表し，討論することにより，これからの学生生活における「学ぶ方法」のおさらいを行う。

(2) 「学ぶ方法」と予想される成果：地域科学関連のテーマを考える→地域科学への興味を持ち，焦点化を行う力
テーマに関連した資料の収集→資料を集める力
収集した資料を読みこなす→資料を解釈する力
ディスカッション用発表資料集の作成→資料をまとめる力
ディスカッション用発表原稿の作成・発表→発表する力
ディスカッションを行う→討論する力

(3) ディスカッションの方法：一人10分の発表時間，５分の討論時間でのディスカッションを行う。共同テーマ・発表を認める。テーマは事前に申告し，世話人がプログラムを作成・配布する。

(4) 教官の対応：配布されたプログラムによって各自興味を持ったセッションに任意参加する。司会にはゼミ委員があたる。

３．６　総括

３．５のディスカッション３回目をもって前期日程が終了したので，総括と基礎ゼミのガイダンスを行うことはできなかった。

4　学生アンケートの結果から

以下に学生アンケートの結果と対比する形で今年度のゼミの実施結果について検討する。

Ｑ５ゼミへの出席

９割以上出席したと答えたものが72％であった。実際，各回毎に出席をとることはなかったにも関わらず毎回90％以上の出席があった。先の読める通常の授業と異なり，短期間で次のテーマに移ったためであろう。

Ｑ７ゼミへの取り組み

50％の学生が意欲的に取り組んだと答え，35％の学生はそうは思わないと答え，回答が分かれた。ゼミ委員の反省においても，今年度は最初の試みということもあり，教官側も試行錯誤の状態にあったと認識している。その結果，学生の側にもこの授業は何を目的として，具体的に何を行っているかを十分に理解できないままに終わった，と考えている。意欲的に取り組んだと答えた学生には，ディスカッションの準備・発表に満足したものが多いと思われる。

Ｑ８Ｑ９ゼミの内容についての質問や発言

質問や発言をしたとは思わない，と答えた学生は84％に達した。また，質問や発言をしたかったとは思わない，と答えた学生は70％であった。これは，ディスカッションにおいて当初の我々の目論見とは裏腹に，学生からの応答がまったくといってよいほどになかったことから予想していた結果である。学生は自由意見においてもディスカッションが低調だったと指摘している。理念としてのディスカッションの実施は正しかったと考えているが，その実施のための学生への趣旨の指導・徹底が不十分だった。しかし，入学当初の学生にそれを期待するのは困難だとの教官側からの意見もある。

Q10クラス編成

このクラス編成は適切であった，と答えた学生は71％であった。しかし，教官側の反省

Akita University

点としては今回の23名編成は多かったと考えている。今後は少なくとも1グループの学生数は10名程度になるように編成すべきだろう。

Q11授業計画

このゼミはシラバスの通り進められた，と答えた学生は62%であった。次に何を行うかは知っているものの，何のために行うかを理解せずに参加したという皮相な見方もできる。

Q12ゼミの準備

ゼミの準備がよくされていた，と答えた学生は60%であった。学生自身によるディスカッションの準備を高く評価したためと考えられる。

Q13内容を分かりやすくする工夫

ゼミ内容を分かりやすくする工夫が感じられたと思う学生は40%，そう思わない学生も40%であった。この点については教官側に反省すべき点がある。我々の見解として，本ゼミは「新入生が大学生活，地域科学課程という課程の内容についてきちんと理解し，自分なりの方向性を打ち出すことができるようになるための重要な授業位置づけて，重視すべき」との結論を得ている。

Q14ゼミ内容の興味について

ゼミの内容について興味があったと答えた学生は17%であったのに対し，そうは思わないと答えた学生は63%であった。我々の期待に反し興味を得ることができなかった。その原因を自由意見より探ると，「授業の時間帯が悪い」「授業の目的が不明」「説明が多い」といった意見もあるが，「ディスカッションへの不満」が挙げられる。ディスカッションの目的を再検討し，それを今後も続けるべきか，続けるならばその指導をどのように行うか，等の本質的な検討が必要である。

Q15教員の熱意

教員の熱意を感じた学生は70%であった。Q14の結果とつきあわせると教員の熱意が空振りした，とみることができる。

Q17学生の効果的な参加

ゼミへの学生の効果的な参加を感じた学生は33%であるのに対し，そうは思わなかった学生は44%であった。ゼミへの満足度のみならず効果に対する疑問も多かったことは，自己中心的な学生気質と勘案しながらもう少し時間が経過してから判断したい。

5　総括

我々が多いに期待し，また時間と経費を大きく割いた学生ディスカッションの不調がゼミ全体への不満感を募らせてしまったと考える。今後この内容をどうもっていくかは課程教官会議にてその実施を含めて再検討したい。

ゼミの前半部に行ったオリエンテーションはその必要性からして不可欠な内容であったと考えている。実施の具体的方法は再検討するにしても今後とも欠かせないものである。

バスハイクは学生に歓迎された。この辺は楽しければ良しとする学生気質を反映しているが，我々としてはその機会を有効的に利用する方向で実施内容を吟味していく必要がある。

図書館の利用については教官側の反省からも「基礎ゼミ」送りにすべき内容といえた。基礎ゼミは実施途上にあるので，それをどう盛り込むかは今後の課題である。

結論として，本年度の初年次ゼミへの我々よりの総括は次の3点に集約された。

(1)　本ゼミは新入生が大学生活，地域科学課程の内容についてきちんと理解し，自分なりの方

Akita University

向性を打ち出すことができるようになるための重要な授業と位置づけられることが確認された。

(2) オリエンテーションとバスハイクは今後とも継続することが望ましい。

(3) 今年度はやや長い期間学生をだらだらと拘束してしまった，との反省に立ち，今後は期間を短縮し，目的を明確に示した上で，集中的に行うのが効果的であると考える。